

1. SR 感染症 (B24 AIDS)

文献

Dunne EM, et al.: The benefits of yoga for people living with HIV/AIDS: A systematic review and meta-analysis systematic review and meta-analysis. *Complement Ther Clin Pract.* 2019 Feb; 34:157-164. Doi: 10.1016/j.ctcp.2018.11.009.Epub 2018 Nov 8. PMID:30712721

1. 背景

HIV/AIDS と共に生きる人々(people living with HIV/AIDS, PLWHA) は、疾病管理に伴う心理的ストレスをしばしば経験する。

2. 目的

このメタアナリシスでは、PLWHA における心理的苦痛に対するヨガ介入の有益性を検討する。

3. 検索法

2017 年 7 月に以下のような包括的なデータベースを用いて検索した。(a) 電子書誌データベース (すなわち、PubMed、PsycINFO、Embase、ProQuest Dissertations and Theses Full Text、CINAHL、ERIC、Global Health、Soc Index、Cochrane Library、Web of Science : Social Sciences Citation Index および Science Citation Index)、(b) 関連原稿の参考文献のセクション、(c) 科学雑誌の目次 (Health Psychology、Journal of the American Medical Association など)、および (d) 進行中または完了した研究 (NIH RePORTer、ClinicalTrials.gov など)。広義の検索語は"yoga"および "HIV"で同定した。

4. 文献選択基準

まず、重複する記録を削除した。タイトルと抄録を 2 人のコーダーがレビューし、最初の組み入れ適格性を決定した。このレビューで関心のある集団 (PLWHA) および/または介入 (ヨガ) に関係のない記録は削除した。総説およびメタアナリシスも除外した。残りの記録の全文を検索し、2 人の研究著者が適格性を検討した。全文記録は、現在の研究の包含基準および除外基準に基づいて削除された。残った記録は、このレビューとメタ解析に含めるために保持された。

適格基準 : (a)HIV/AIDS とともに生きる人々におけるヨガ介入を評価し、(b)対照条件を含む研究、(c)心理的ストレス、ストレスの生理学的マーカー、または疾患進行のバイオマーカーを評価した研究、(d)エフェクトサイズを算出するために必要な統計量を提供した研究を対象とした。

5. データ収集・解析

各記録は 4 人の独立したコーダーのうち 2 人によってコード化され、これには標準化されたコード化フォームを用いた研究デザイン、サンプル、介入情報の抽出が含まれた。研究の方法論的質 (MQ) は、検証された尺度 [25-28] の 17 項目を用いて 2 人の独立したコーダーにより評価され、矛盾はコーダーにより、またはコーダーがコンセンサスに達しない場合は研究責任者により、検討、議論、解決された。カテゴリー変数については、コーダーは 94% の判断で合意した (平均コーヘン $\kappa=0.79$ 、範囲 $=0.20\sim 1.00$)。連続変数 (平均年齢、女性の割合など) の信頼性は、カテゴリー間でクラス内相関 (ICC) 係数 (ρ) が 0.97 であった (中央値 $=1.00$)。また、効果量を算出するために、2 人の独立したコーダーによってデータが抽出された。不一致は、データ入力と分析の前に話し合いによって解決された。

6. 主な結果

PLWHA 396 人の (平均年齢 $=42$ 歳、SD $=5$ 歳、女性 40%) を対象とした 7 件の研究が組み入れ基準を満たした。ヨガの介入を受けた PLWHA は、対照群と比較して、自覚ストレス ($d+=0.80$ 、95%信頼区間[CI] $=0.53$ 、1.07)、ポジティブ感情 ($d+=0.73$ 、95%CI $=0.49$ 、0.98)、不安 ($d+=0.71$ 、95%CI $=0.27$ 、1.14) の有意な改善を報告した。また、介入群はヨガ介入直後に不安が軽減していることが分かった ($d+=0.48$ 、95%CI $=0.11$ 、0.85、 $k=3$)。追跡調査時には QOL が改善したと報告した ($d+=0.27$ 、95%CI $=0.02$ 、0.53; $k=4$)。

7. レビュアーの結論

ヨガはストレス管理のための有望な介入である。しかし、研究数が少ないため文献は限られている。ヨガの有益性をさらに評価するためには、HIV 関連の転帰を客観的に測定したランダム化比較試験が必要である。